


平成23年度 工芸技術記録映画

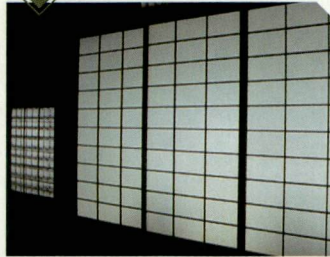
# 本美濃紙

企画 文化庁 製作 毎日映画社



日本列島のほぼ中央、  
美濃の<sup>わらび</sup>蕨生の里に、  
独特の紙漉きの技で  
美しく堅牢な和紙を  
作り続けている人々がいる。  
本美濃紙<sup>ほんみのし</sup>を作る人々である。  
彼ら、本美濃紙保存会の会員たちの  
技と和紙への熱い想い・・・、  
そして、その想いを支える、  
この地の和紙製作の道具作りの人々。  
この映画は、国の重要無形文化財  
「本美濃紙」の技を忠実に記録したものである。

# 1 重要無形文化財「本美濃紙」



江戸時代から最高級の障子紙として高く評価された本美濃紙。その製作技術は昭和44年に国の重要無形文化財に指定され、現在、本美濃紙保存会がその保持団体として認定されている。

# 2 かわざら川晒し



本美濃紙の原料は、茨城産の良質の那須楮である。その白皮を板取川の清流で2日2夜晒し、アクを取り除く。

# 3 かみに紙煮(煮熟)



白皮を草木灰またはソーダ灰の溶液で煮る。白皮の不純物は取り除かれ、繊維が柔らかくなる。

# 4 ちりとり



白皮に残る点のように小さなちりや傷を丁寧に取り除く。鈴木はぎさんは、子どもの頃からちりとりを続けてきた。

# 5 かみう紙打ち(叩解)



菊の花のような放射状の筋が彫られた槌で原料を叩く。繰り返し叩くことで、一本一本の繊維にばらしていく。

# 6 きょうまばんすき京間判の漉き



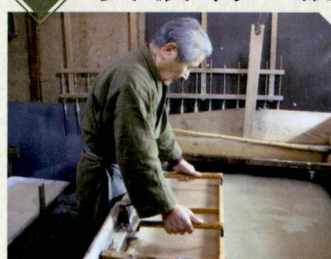
原料とトロロアオイのネリを入れて攪拌した後、澤村正さんが本美濃紙を漉く。縦ゆりにゆったりとした横ゆりを加え、横ゆりによって繊維は整然と絡み合い、強さを増す。

# 7 すきざるの製作



美濃の簀は目が細かい。竹ヒゴの太さは0.5~0.7mm、約15mmの幅に26.5本が美濃の簀の標準的な間隔である。伊藤裕子さんが、斜めにそぎ落とされたヒゴの先端を繋ぎ、「そぎつけ」の簀を編む。

# 8 み の ばん すき美濃判の漉き



「美濃判」と呼ばれる伝統的な大きさの紙を漉く。小さな桁を二つに仕切り、二枚一緒に漉く。京間判と同じ漉き方で縦ゆりと横ゆりを繰り返す。

# 9 うすみの濃の漉き薄美濃の漉き



薄美濃は古文書、古画の修復や表具の裏打ちなどに使用される。鈴木豊美さんは桁の中で水を良く動かす「こなしゆり」で薄美濃を漉く。

# 10 けた桁の製作



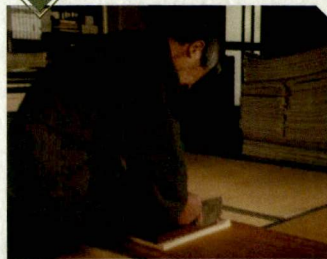
桁は簀を固定する外枠で、紙漉きの要となる道具である。美濃に住む庄司和成さんが最高級の本曾檜で桁を作る。

## 11 金具の製作



桁のにぎりにつくL字形の金具は、美濃の隣の関市に住む船戸桂三さんによって作られる。

## 16 裁断



紙を重ねて裁断する。紙の上に体重をかけて切る。

## 12 紙干し(乾燥) (1)



漉きあげた和紙を一晩置いてから脱水し、1枚ずつ剥がし、刷毛を使って桁の干し板に貼る。

## 17 技術研修会



美濃では、本美濃紙製作技術の研修会が行われており、本美濃紙の技術は、若き後継者たちへと確かに受け継がれている。

## 13 刷毛の製作



すげがわよしひさ助川芳久さんが、馬のたてがみを用いて刷毛を作る。刷毛作りで最も大切なのは、丁寧に馬の毛を揃えることである。

## 14 紙干し(乾燥) (2)



和紙を貼った干し板を天日で乾燥させる。和紙は太陽の光を受け、白さを増す。

## 15 選別



仕上がった紙を光に透かして選別する。重さの違いを手で確かめ、目で見、分けていく。

協 力

本美濃紙保存会

伊藤裕子 庄司和成 助川芳久 船戸桂三 太田勝

美濃和紙の里会館

美濃市教育委員会

宮内庁正倉院事務所

製作スタッフ

製	作	小 暮 忠 宏	語	り 田 中 浜
監	督	黒 崎 洋 一	音	楽 山 崎 茂 之
撮	影	中 井 正 義	タ イ ト ル	鶴 岡 秋 育
照	明	山 田 和 夫	ネ ガ 編 集	長 沼 ヨ シ コ
録	音	中 野 高 良	M	A 門 倉 徹
撮	影 助 手	さいとうそうた	現	(東京テレビセンター)
照	明 助 手	佐 藤 歳 介	像	YOKOCINE D.I.A.
制	作 進 行	柿 沼 智 史		